

平成 27 年度北陸地区国立大学学術研究連携支援報告書

研究グループ名	欧州新興経済にみる経路依存性アプローチ (支援期間：平成 27 年度)			
大学名	所属		氏名	
富山大学	研究推進機構極東地域研究センター		○堀江 典生	
金沢大学	人間社会研究域経済学経営学系		○堀林 巧	
注 1. 各大学の研究グループ責任者の氏名には○印。 注 2. 所属（その他の機関については職名も）については、平成 28 年 3 月末現在を記入。				
その他の機関 の 構 成 員	機 関 名	所 属	職 名	氏 名
	京都大学	経済研究所	教授	溝端佐登史
成果概要	<p>本研究では、旧社会主義計画経済の遺制や市場経済化初期の政策決定がその後の制度変化の経路を説明する「経路依存性」アプローチを援用し、ソビエト型制度遺制が現代のロシア企業における所有者-経営者-従業員関係にどのような影響を与えているかを、主に労働、労務管理、社会保障面において検討することを目的とした。経路依存性は、優れて旧制度学派的視点の応用に新たなチャレンジの方向性があり、両大学研究代表者は、経路依存性アプローチの展開が移行経済研究にとって重要なアプローチであるとの共通認識をもち、同じく移行経済研究における制度学派的分析に詳しい京都大学経済研究所の溝端佐登史教授を加え、共同研究を行うこととした。</p> <p>2015 年 12 月 6 日には、金沢大学角間キャンパスにて本事業の成果に基づく研究会（総参加者数 54 名）を開催した。堀林巧は、その研究会において、これまでの自身の研究を振り返り、そのなかで資本主義の多様性論を位置づける講演を行った。本共同研究をベースとして、研究期間中に、平成 27 年度公益財団法人 KIER 経済研究財団研究会及び講演会・シンポジウム助成を申請し、獲得することができ、その結果、本共同研究の構成員のひとりである京都大学溝端佐登史教授とともに 2016 年 2 月 23～24 日には本共同研究の成果に基づく国際コンファレンス「移行経済における制度多様性と経路依存」を、京都大学経済研究所共同研究・共同利用プロジェクトとして実施することができた。この国際コンファレンスでは、本共同研究富山大学側代表者が「ロシアの労働組合：その経路依存的性格」と題する研究成果の発表を含む 11 報告があり、中でも移行経済論における著名研究者であり、経路依存性論においても国際的研究に大きな影響を与えた Gerard Roland などのキーノートスピーチが行われるなど、充実した国際コンファレンスの開催となった。</p>			
獲得した外部資金	平成 27 年度公益財団法人 KIER 経済研究財団研究会及び講演会・シンポジウム助成(寄付金 30 万円：代表者堀江典生) 獲得			